片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL　0258-84-3246
FAX　0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

JA片貝町で市からの説明受ける
12年度の米作りも厳しい！
しかし、農家は意外に冷静

市は農林水産省の平成12年度の米の生産調整目標面積の発表を受け、去る2月6日、JA片貝町の3階会議室で、JA片貝町管内の農家組合長、生産組合長等約60名を集めて説明会を開催した。当市に占めされた配分面積は10年度、11年度とほぼ同数値、従ってJA片貝町管内に配分された面積も3年連続で同数値。質問及び反対する意見もなく、〝従うしかない〟のムード一色だった。

12年度のJA片貝町管内に配分された生産調整面積は、1万4109㌃、水田基礎面積に対する割合は25・034%。組合毎に見ると、鴻巣農家組合2466・5㌃、小粟田原山屋生産組合218・8㌃、小粟田原片貝生産組合918・0㌃、鴻野谷片貝生産組合663・9㌃、大貝原生産組合205・5㌃、越路原生産組合389・8㌃、左岸南部片貝生産組合2539・8㌃、池津農家組合1494・1㌃、高梨第1農家組合505・5㌃、高梨第2農家組合574・8㌃、高梨第3農家組合387・7㌃、五辺集団転作組合3419・4㌃。25・034%という数字は、4年に1回は米を作るな、という数字であるが、3年目であり、しかも米余り現象がより深刻となっていることなどから、反発する意見はひとつもなかった。

また、12年度は新農業基本法元年と呼ばれており、この説明もあった。従来は休耕田に対しても助成金が割り当てられていたが、新農業基本法では転作を重視した補助金となる。これは日本が先進国の中にあって、食料自給率が著しく低いための対策にのりだしたため。国は麦、大豆、飼料作物を転作奨励に指定しており、新潟県は当市の要望などを入れてそばをこれに加えている。そばを転作奨励作物とするにあたっては、JA片貝町が五辺集団転作組合などが、そば栽培に一生懸命であることを受け、市に強く働きかけ、市が県に対して要望した経緯がある。

6日の説明会には関広一市長も出席、冒頭「平成11年度の生産調整については、皆様方の特段の協力をいただき、目標を達成することが出来感謝している。昨年7月に新農業基本法が制定され、12年度から実質的にそれがスタートする。高品質の売れる米作りをしなければならなくなっている。12年度も協力を」と挨拶。

友田明石組合長は「米余り現象の中、価格安定のためには生産調整に応じざるを得ないのが現象。農家の方々もその辺の事情がよく分かっているだけに、静かな説明会になったのでは」。

料理の河内さくら先生の講演会
5日、JA片貝町が

JA片貝町はテレビなどで活躍している河内さくら氏による講演会「いきいき人生　すこやか人生」を、3月5日午前10時半から農協3階ホールで開催する。一般の聴講歓迎。事務局はJA片貝町女性部（☎84―2300）。

講師の河内氏は昭和13年新潟市生まれ、昭和38年さくらクッキングルーム開設、NST「河内さくらの料理教室」のレギュラー講師を昭和59年～平成5年。現在、三菱マテリアル栄養士、一正蒲鉾顧問、雪国まいたけ顧問。

試食会4月2日開催!!
中学校の学校給食
申し込みは3月22日まで

長年の懸案であった給食センターがこのほど完成し片貝中学校でも、新年度から町民待望の学校給食がスタートする。市では市民を対象にした、学校給食の試食会を各地区の中学校で4月2日(日)開催する。

片貝地区では百五十食が用意され、4月2日(日)午前11時30分から午後1時まで片貝中学校で試食会が行われる。試食会に出席したい希望者は3月22日(水)までに一食三百円の食券を片貝支所で購入して当日会場に持参。担当者は「食券は数に限りがありますので、希望者は早めに求めて下さい。又4月2日午前9時から午後5時まで、小千谷市大字千谷（千谷地区のすみれ保育園と隣接）に建設された、仮小千谷市学校給食共同調理場が一般に開放されて、建物の内部が誰でも自由に見学出来ます。」と語っていた。尚、食券購入申し込み、その他のお問い合わせは片貝支所☎84―2026へ。

主張
ボランティアへの取り組み

弥生の三月意外に雪が多いもののあらゆるものが変化を遂げる月でもある。

派手さや特別目立つことはないが地道にその活動を繰り広げているひとつとしてボランティア活動がある。残念ながら片貝での活動は至って少なく小紙一面に報じられている「読み聞かせの会」ほか数団体にすぎない。いまや教育現場である小・中学校をはじめとしてスポーツ団体や学校教育の一環としてもこれをとりあげ実践しているところも全国的にみると増えつつある。

かって鬼検事として名を馳せたロッキード事件の堀田力氏も退官後ささやか福祉推進センター（現在さわやか福祉財団）を開設、福祉に取り組むほかこのボランティア活動に積極的に参加多くの影響を与えている。

平成十年三月NPO法（特定非営利活動促進法）がはじめて我が国でもようやく制定され、福祉や環境、まちづくりなど多くの分野で非営利活動の応援ができるようになった。果たしてこの法を活用して活動を展開している団体が市内にいくつあるか知らないがそう多くはないだろう。そんな大上段に振りかぶらなくてもささやかながらボランティア活動をやっている人たちは案外多い。またボランティアと名乗らなくてもこれに近い活動をやっている団体も沢山ある。しかしどういうわけかこの片貝には少ない。

取りまとめは別としてこれは何も行政の手を患わすこともない簡単なことで、誰でもやろうとさえ思いばすぐできることだ。先般あるテレビの報道で北海道のとある町でこのボランティア貯金なるものを設け、たとえば屋根雪下ろし何点、老人家庭の清掃や修理何点、パソコンや英語の指導何点、買物、運転何点ということで点数をつけ町中貸し借りができる相身互いというか、これこそボランティアの精神にかなったもので、先行き老齢化・少子化が進むことを思うと素晴らしい発想だと思う。

片貝は昔から職人町ということでほとんどの人が稼いでおりそんな余裕などないと言われかねない。こうした長い間の積み重ねが自然と身につき何事も人任せな無責任な態度となり、自分のまちのことにもかかわらず協力もせず、逆に多少不満があっても口にせず黙って通り過ごせば何とかなるという消極的というか狡猾な行動さえする。それれでいてきっちり批判だけは忘れない。これでは町が進展してみようはずがない。

ボランティア活動といっても多種多様あって、公園の清掃、空缶拾い、身体障害者や高齢者のための支援、買物や入浴補助などおよそ人の暮らすところには何でもある。

要はこれをやろうとするかどうかで、気恥ずかしさもあり億劫だという気持も理解できないこともないが差し詰め自分のやりやすいものから手をつけ、こうしたささやかな行動を積み重ねることによって片貝人の気質というか気風を変える手立てとしたいものだ。

交通事故防止のためのお願い
小千谷警察署片貝駐在所

片貝町地内で、今年に入り2件の交通死亡事故が連続発生しました。

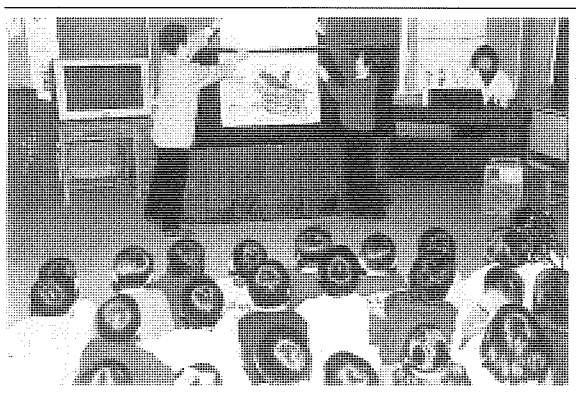
また、県内でも交通事故が多発していますが、それら事故の原因を調べて見ますと、「脇見運転」「ぼんやり」「ちょっとの油断」と、スピードの出し過ぎ等から起きています。

交通事故を防止するために次のことをお願いします。

◎運転される方へ
・スピードは控え目に
・飲酒運転は絶対にしない
・夕方はライトの早めの点灯
・脇見運転は絶対にしない
・シートベルトは忘れずに
・携帯電話は車を止めてから

◎歩行者や自転車乗りの方へ
・道路を渡る時は左右の安全を確かめて
・夜間の外出は明るい服装で灯具や反射材を利用し、運転者から目立つようにしましょう
・交通ルールは必ず守りましょう

犯罪や事故の無い明るい片貝町にするために、地域の皆様方のご協力をお願いします。



読み聞かせボランティア
片貝小を訪問して活躍

小学校低学年を主な対象に絵本や紙芝居の読みきかせのボランティア実施の読みきかせの会では、去る2月5日(土)片貝小学校を訪れ一年生（午前9時40分～10時25分）と二年生（午前10時45分～11時30分）に読みきかせを行った。

当日会場となった、片貝小学校三階の視聴覚室に読みきかせの会の会員7名が訪れ、生徒たちに「ねこかもね」など、それぞれの学年にむいた絵本を読みきかせしたあと、キーボードの生演奏をバックに手づくり大型紙芝居「安寿とずし王」を見せ、子供たちを楽しませていた。

「今年の読みきかせの会のはじまりは、3月18日(土)午後1時30分から片貝支所二階ホールで行いますので、みんなも忘れず来てください。」と会員が呼び掛けると生徒たちは大きな声で「ハイ」とこたえていた。

かたかい春秋

弥生三月、早晩は寒いが、春の足音がかすかに聞こえてきたような気がする。随分日も長くなった。

それもそのはず、今月は春の彼岸の中日を迎えるのだ。▼新潟県警がまさに袋だたきの感じだ。一回嘘をつくと、それをとおそうとしてまた嘘をつくことになってしまう典型事例といえまいか。まったく弁解の余地のない失態となってしまった。追い越したかに見えた時▼どうしてこのようになってしまったのか。神奈川県警と新潟県警だけの問題ではあるまい。警察だけでなく日本社会全体が〝金属疲労〟を起こしたもあった。それからがどうもいけない。経済はバブル崩壊後、今日まで低迷している。▼そもそも50年以上たつと、ほとんどの組織が〝金属疲労〟を起こすものらしい。日本警察ほど優秀な警察はない、と評価されたこともあった。現在も日本ほど治安のよい国はないと言われている。どうして今回のようなことになったのか。▼様々な意見があるではあろうが、一つには長い年月の間に、組織内に目を向けることが多くなったためではないか。自然、昇任のことばかり考えたり、上部に認められようとすることのみに重点が置かれ、組織を守る体質となる。そこには国民のため、国益、県益ということが忘れ去られているのでは。▼ここでもう一度タガをしめ直して、優秀な警察として再スタートしていただきたい。我々国民、県民も警察がなければ治安もないことを考えるべきだ。

真冬の温泉でゲートボール
寺町チームが3度目のV

第15回JA片貝町杯争奪ゲートボール大会（JA片貝町主催）が去る2月12(土)13(日)の両日折立温泉ホテルゆのたに荘「特設トレーニングセンター」で開催された。

この大会はJA片貝がゲートボール愛好者の交流の場を設け、親睦と冬季の健康促進の活性化を計ることを目的として、毎年この時期に開催している。今回は昨年優勝の高梨Aチームを初め11チーム60名が参加して変則28試合（1チーム5試合）のリーグ戦が行われ幸町、第5B、高梨Aの3チームが4勝1敗となり、得失点の差で寺町チームが二年ぶり三度目の優勝を果たした。12日の夜は温泉で汗を流し、熱燗で親睦を深めた。なお、成績と登録メンバーは次のとおり。

①寺町チーム（中野卓、小林計助、小川政利、相崎清一、木曽慶喜、相崎良雄）、②第5ヤヨイ会B（安達栄次郎、浅田正二、吉井泉、安達初枝、清水トミ）、③高梨Bチーム（大平功、鳥羽清、坂詰勇治、金子久作、水内幸光）、④片貝クラブ、⑤高梨Aチーム、⑥第4ヤヨイ会、⑦町裏チーム、⑧第5ヤヨイ会A、⑨第1ヤヨイ会、⑩鴻巣チーム、⑪JA片貝町職員チーム

寒梅を愛（め）でながら美酒
風流な片貝さつき盆栽会

片貝さつき盆栽会（小宮隆夫会長）では、毎年寒梅の見頃となるこの時期に開催している「梅見の会」を今年も去る2月11日(金)建国記念日の日の午前11時から片貝公民館二階ホールで開催した。

今年で20回目を迎えた会場には各会員が一年間丹精こめて育てあげた白梅、紅梅、黄梅などを持ちよった十数鉢の寒梅を、参加した18名はじっくり観賞した後は、寒梅を肴に宴会となり梅やさつき盆栽についての談義に花がさき、会場は盛り上がっていた。

明るい家庭の作文

片貝小、中から大勢入選

平成11年度「明るい地域社会・家庭づくり」「家庭の日」に関する作文コンクール（小千谷市教育委員会・青少年育成小千谷市民会議主催）の入賞作品がこのほど発表になり、片貝小学校四年の新野吉平君（新屋敷）と片貝中学校三年の佐藤英恵さん（一之町二区）の二人が最高賞の市長賞を受賞した。なお、佐藤さんは昨年も教育長賞を受賞しており、二年連続の快挙。また、片貝小学校六年の大矢洋美さん（四之町）が教育長賞を受賞した。その他片貝からは五名（昨年六名）が奨励賞を受賞した。

平成11年度の応募総数は昨年の百七十九点より二十三点減少の百五十六点で、内訳は小学生百七点（昨年百十八点）、中学生四十一点（昨年四十六点）、一般・PTAの部十三点（昨年十五点）。一次審査を通過した作品の中から小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年、中学校、一般・PTAの五部門で、それぞれ市長賞と教育長賞、奨励賞が選出された。

片貝町関係の入賞は次のとおり

［小学校低学年の部］

▽奨励賞＝藤塚祐多（片貝小一年・稲場）「しめなわつくり」、相崎健太（片貝小二年・稲場）「おじいちゃんのどうぐ」

［小学校中学年の部］

▽市長賞＝新野吉平（片貝小四年・新屋敷）「おばあちゃん」

［小学校高学年の部］

▽教育長賞＝大矢洋美（片貝小六年・四之町）「天使の翼、二十一世紀に向って」

［中学校の部］

▽市長賞＝佐藤英恵（片貝中三年・一之町二区）「米寿の祖父に学んだこと」

▽奨励賞＝大平一葉（片貝中二年・町裏三区）「初めての単身赴任」、丸山寛奈（片貝中二年・新屋敷）「私の大事な家族」、大矢忠幸（片貝中三年・茶畑）「会社の手伝い」

中学生の部市長賞

＝平成11年度「明るい家庭づくり」「家庭の日」に関する作文コンクール＝

米寿の祖父に学んだこと

片貝中学校三年　佐藤　英恵

「恵まれた家族に支えられて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。」

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っております。孫たちの成長の姿は楽しみで、年寄りたちに生きる力がつきます。家族のおかげで今までこんなに生きてこれたのです。本当にありがとう。

私の祖父は今年の三月で八十八歳を迎えます。それを前にして去年、家族・親戚で米寿の祝いを行った時の祖父のあいさつです。ゆっくりと一言一言話す言葉に心がこもっていて重みがありました。私は特に、「孫たちの成長が楽しみで」という所が心に残りました。今、祖父の一番近くにいる孫が私だからです。祖父の家は私の家から歩いて十分ほどの所にあります。私が祖父の家へ行くと喜んで迎えてくれます。いつも食べきれないほどのお菓子を出してくれます。私がテストや大会などで良い成績を取ると、いっしょに喜んでくれたり、成績が悪かったりされて、幸せな毎日を送っ

けではなく、たくさんの人が心配してお見舞いに来てくれました。それほど祖父は周りの人に頼りにされたり、慕われていたということです。私もうれしかったです。一ケ月後に退院した時はホッとしました。退院はしたけど、完全には治っていなくて家の中を杖をついて歩いています。それなのに、一度祖父の足を踏んでしまったことがあります。その時私は、「これでもっと悪くなったらどうしよう。」と思い、何度もあやまりました。祖父は一瞬痛そうな顔をしましたが、すぐに全然痛くなさそうにふるまってくれました。祖父の優しさがひしひしと伝わってきました。

祖父は、食べ物の好き嫌いをしません。戦争を体験しているからでしょう。戦争中は満足に食べる物もなかったと学びました。それに比べて小さい頃から食べたいだけ食べることができた私には嫌いな食べ物があります。私のあまり好きではない山菜も「おいしい、おいしい」と言って食べます。昔はごちそうだったそうです。もう一つ私と祖父で違う所があります。それは忍耐力です。夏の強い日差しの中で黙々と草を取っている姿は、いつ見ても感心しました。しかし私は、部活などで暑くなるとすぐに水を飲んだり、疲れたからと言って何回も休憩をしていました。いつも少しでも楽な方へと行ってしまう私の悪い所です。

祖父の「家族に支えられて」という言葉を聞いて、改めて家族は大切なものなんだと感じました。私は祖父と祖母からは、元気や感動をもらっています。また、父からは雪おろしや雪かきなど、大変な仕事をすべてやってもらっています。それに、数学などでわからない問題を教えてもらったりもします。そして母からは、毎日の食事を作ってもらっています。母は誰よりも朝早く起き、朝食の他に三人分の弁当も作ります。三年間一日も欠かさずに作ってくれました。毎日栄養のバランスを考えて作ってくれるので私たち家族は病気にかかる事はないし、風邪もめったにひきません。母のおかげです。

普段あたり前のように過ごしている毎日ですが、家族がいるから不便なく過ごせるのです。一人暮らしをしている兄は家に帰ってくると食事の支度や後片付けを手伝います。そして私に「おまえも手伝え。」と言います。兄は少しでも手伝ってくれる人がいれば、どんなに楽になるのかわかっているのでしょう。

私は、仕事を頼まれても何か言い訳をして逃げたり、仕方なくやることが多いです。だから、私にはこれは家族のためにやっているんだと自信を持って言えるものがありません。私が何もやらなければ父や母の負担が重くなるだけです。父や母には体を壊してほしくないので、私にできることはどんなに小さなことでも自分から進んでやっていきたいと思います。そうすれば、父も母も楽になり、喜んでくれると思います。いつか、私が今、家族みんなに感謝しているように、私も家族みんなから感謝されるようになりたいです。

片貝醫院18日から開院

11日の内覧会大勢で賑わう

2月18日に開院した片貝醫院（根本聡子院長）は開院に先がけ建国記念日の2月11日午前11時から午後1時まで内覧会を行った。

当日は雪の降る寒い日にもかかわらず片貝醫院には老若男女大勢の人々が見学に訪れ、受け付けや待合室大変な混雑で、根本先生を初め5名のスタッフは見学者の説明に大変のようであった。見学に訪れたある老人は「私達高齢者にとって身近に若くて美人のお医者さんが居ることは、嬉しいし、ありがたいことです。月2・3回小千谷に行っていたが、これからは片貝醫院に来ることにします。」とニコニコしながら話をしていた。

◀11日、内覧会は大賑わい

卒業・卒園近づく

今年もまた入学・卒業のシーズンがやってくる。少子化にともない全国的に卒業者が少なくなっている。片貝町でも本年度の中学校卒業者は14名、小学校卒業者は24名も昨年より少ない数となっており、片貝保育園の卒園児は昨年に比べてわずかではあるが2名多い。卒業・卒園式の日程と人数は次のとおり。

▽片貝中学校の卒業式は3月8日水曜日で卒業生は54名（男29名、女25名）

▽片貝小学校の卒業式は3月24日金曜日で卒業生は48名（男24名、女24名）

▽片貝保育園の卒園式は3月25日土曜日で卒園児は40名（男23名、女17名）

がそれぞれ希望に胸をふくらませて、未知の世界へと旅たつ。

鬼は～外！福は～内！

保育園で元気に豆まき

片貝保育園（松村雅子園長）では毎年恒例となっている、節分の豆まき行事を2月3日午前10時から片貝保育園内で行った。

会場には、130名前後の園児たちが集まり、園長先生の節分豆まきの紙芝居を見たあと、「豆まきの歌」、「鬼退治の歌」、「福の神の歌」等元気よく唄い、豆まきの練習をし全園児が行い先生が扮するぬいぐるみの赤鬼・青鬼が登場すると、子供たちは元気よく「鬼は外、福は内」と鬼をめがけて豆を投げていた。なかには鬼が恐くて泣きだす年少組の子供もいた。鬼が退散すると、福の神様（園長先生他2）が表れ、福豆まきがはじまり園児たちは元気よく、各人が持参した袋イッパイになるまで、福豆を拾っていた。

また、この日午後1時から年長組の園児20名前後は福豆を持参して、デイホームかたかいを訪問した。永寿荘には池津ヤヨイ会の15名前後の人達が待っており「園児たちは午前中沢山の福豆を拾いましたので、今度は皆さん方の福豆拾いのお手伝いをする、まもなくピカピカの一年生になる子供たちです」と先生の紹介、園児たちは「ユキとなかよし」、「豆まきの歌」等の歌を聞かせ、福の神を呼び福の神様のまく福豆を拾って、お年寄りたちの袋に入れてやったり、お話をしたりして、おじいさん、おばあさん達と楽しいひとときを過ごしていた。

片貝ヒューマンウォッチング

片貝醫院の根本院長

去る2月18日、二之町の県道沿いに鮮やかなピンク色の建物、片貝醫院がオープンした。片貝町民にとっては心強く、明るい話題。その根本聡子院長に登場願い、町民を代表して様々な質問を試みた。

三重県北牟婁（きたむろ）郡紀伊長島町（海辺の田舎とのこと）出身、昭和37年生まれ。昭和大学医学部卒、東京慈恵会医科大学附属青戸病院内科助手、魚沼病院非常勤医師などを経て、此の度片貝醫院開院となった。夫の忠氏は魚沼病院内科医長、3歳の美香ちゃん、1歳の悠花ちゃんの母親でもある。

何故、片貝町で開院する気になったのか、それも住居も一緒とは答えは何と！片貝まつりにあった!!夫の忠氏が片貝まつりの花火に魅せられ、8年間通いつめたあげく、とうとう永住を決意したのだという。古くから培われてきた地域社会の心意気、底力といったものを感じ、聡子院長自身も子供を育てるにはこのような地域に住みたい、しいては片貝の人達の役に立ちたい、と医院を開く決心となった。

2月18日から開院。町民にとって〝かかりつけ医〟と言われる存在を目指す。それぞれの病歴などを把握して健康管理、病気やケガの初期治療を行ない、重い病気の時は適切なタイミングで病院に紹介もしたい、思えば昔はこのような診療所があたり前のようにあちこちにあった、と熱く語る。

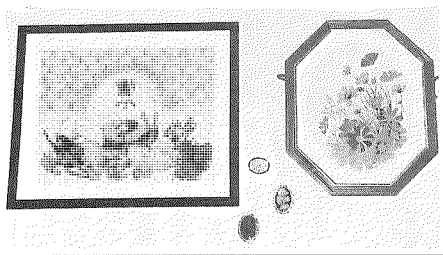
将来展望については「ゆくゆくは在宅医療に比重がおかれるのが国の方針のよう。診療所は医療や福祉のステーションのような役割をも担うことになるでしょう。健康増進にも一役買いたい。みなさんとゆっくりプランを練って行こうと思うので、ご意見・ご提案をお寄せ下さい」。

移住してまだ間もないが、片貝町、片貝町民に対する感想は？の質問には、「片貝の人は頑固一徹で、まるで独立しているかのような特殊な地域」と周囲から吹き込まれている、と他人からの指摘としながらもズバリ!?続けて「そのかわり、人情に厚く、きっぷの良い所がある」とも聞いている。ときちんと修復（？）「今のところ違和感はなく、これからも宜しくお願いします」とニッコリ。

現在は何かと多忙で、休日も子供とゆっくり過ごせないことが多いとのこと。趣味はパソコン、インターネット、料理、手芸。

あなたも押し花をやってみませんか

サークル発足の前に5日一日無料体験会



「野の花やお庭の花、記念の花などで、自分だけのインテリアアートを作ってみませんか？」と一之町二区の水尾久子さんが「押し花サークル」の仲間を募集している。4月から片貝公民館を会場に押し花サークルを開催する計画という。

水尾さんは「4月からの押し花サークル開催に先がけて、押し花の魅力、楽しさ、面白さを知っていただくために、5日に一日無料体験会を行いますので、どなた様もお気軽にどうぞお

いで下さい。」と呼びかけている。

なお、無料体験会は3月5日午後1時から3時まで。片貝公民館で開催。希望者は牛乳パック、ハサミ等を持参。詳しい問い合わせは☎84―2803へ（夜のみ）

ハローベイビー

○黒崎嶺（れい）ちゃん（一之町二区）

パパ裕さん（26才）

ママ絵里さん（26才）

第2子次男

平成10年10月5日生

現在の体重12kg身長84cm

Q名前の由来

A山をイメージして、身体も心も大きい人に育っていって欲しいと思い、名付けました。

Qお子さんの様子

Aお兄ちゃんにおもちゃのとり合いなどで泣かされたりもしていますが、お店屋さんごっこやブロック遊びなどでは、相手をしてもらい楽しく遊んでいるようです。

Qどんな子に育って欲しいですか

A強くて、たくましく元気一杯の男の子に育ってくれたらと願っています。